

# 節電で会社が変わる!?

今日から始められる、この夏の

特集

# 節電 対策

東日本大震災の影響を受け、多くの企業が懸命に節電に取り組んだ昨年の夏。

そして今年、皆さんはどんな対策をお考えでしょうか。

中小企業にとって、設備投資を伴う抜本的な対策の実施は、なかなか難しいものがあります。

そこで、まず東北電力(株)の五十嵐 厚さんに、この夏の電力需給の見通しを伺い、節電の必要性を再認識した上で、地道な節電活動によって、様々な成果を上げているリコージャパン(株)の取り組みから、いくつか実例をご紹介します。

今年の夏、できることから節電を始めてみませんか。

## 今夏の需給見通しと 節電対策について

東北電力(株)お客さま本部 営業部

副長 五十嵐 厚氏



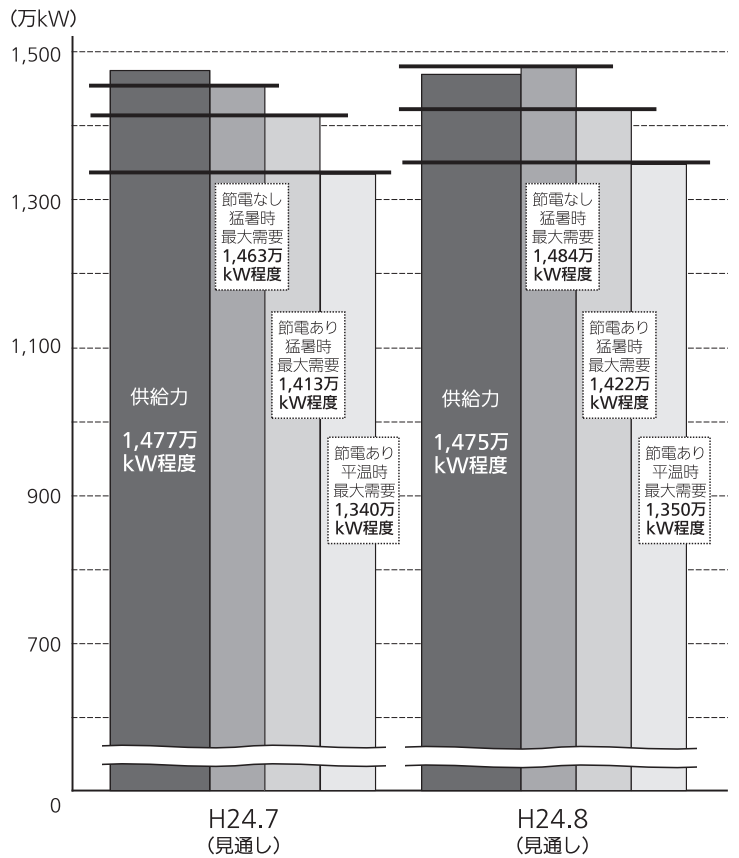
### できる範囲での 「節電」が必要

まず東北電力の五十嵐さんに、この夏の電力需給見通しを伺いながら、どのような節電が必要になるのかをお聞きしました。

「昨年の夏、また冬にはお客さまに節電へお取り組みいただいたおかげで、厳しい電力需給を乗り越えることができました。改めて御礼申し上げます。今夏については、猛暑時で3・8%の供給予備率(電力の余力)となる見込みです。これは、予備力としては53万kWであり、例えば60万kWの火力発電所が予期せぬトラブルにより停止しただけで供給力不足に陥るといったリスクを抱えており、決して供給力が万全とはいえる状況にありません。このようなことから管内のお客さまには生産活動に支障を来た

ささない範囲で、可能な限りの節電をお願いしたいと考えております」と五十嵐さん(図1参照)。昨年の夏に節電に取り組んだ意識を継続、実践すること、この夏も乗り切ることができそうです。

「昨年の夏は東北全体で15%の節電目標が国から設定され、皆さんにご協力いただきました。今夏は震災からの復興を進めている最中で、厳しい節電を行うことが復興の妨げになる可能性もあることから、数値目標のない節電取り組みを国から要請されております。電力の需給見通しとしては、今夏も決して余裕があるとはいえないことを、皆さんにご理



〈図1〉今夏の需給見通しについて

解いただければと思っております」と五十嵐さんは話します。

**最も電気を使う「ピーク時」に着目**

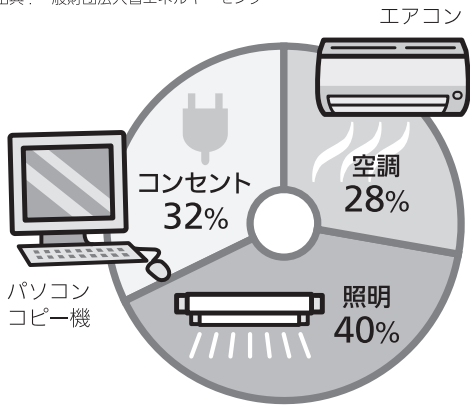
節電の数値目標が示されなかったこの夏こそ、改めて事業所内での節電を見直し、実践に移すべきなのかもしれません。

「省エネルギーセンターのデータを見ますと、オフィスで使われる燃料・熱・電気の一次エネルギーの割合は、照明が40%、空調28%、コンセント32%となっています(図2)。そこで消費割合が大きい

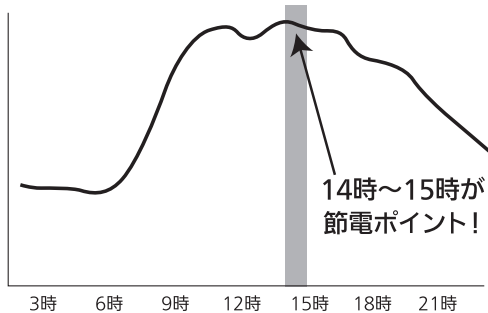
〈図2〉 オフィス占有部門のエネルギー消費先割合

※数値は電気エネルギーだけでなく、ガスなどの全てのエネルギーを含んだ割合です。

出典：一般財団法人省エネルギーセンター



〈図3〉夏の電力需要ロードカーブイメージ



順に節電に着手するのも、一つの手ではないでしょうか。またオフィスビルなどの場合、電気の基本料金は一年間を通じての最大需要電力を基準として決定されますので、ピーク時の電力使用を控えることで基本料金が下がり、より大きなコストダウンを図ることもできると思います(契約者が高圧受電で契約電力500kW未満の場合)という五十嵐さんの話のように、オフィスで最も電気を使用する時間帯と、電力使用のピークを押し上げているのはどの部門なのかを再確認するのも節電のポイントです。

また、一日の電力の需要をグラフにすると、夏は14時から15時がピークを迎えることがわかります(図3)。

「業務部門といわれるオフィスビル等は、まさにこの形状通りの電気の使用ではないかと思えます。このピークの時間を中心に、オフィスビルでは空調や照明を抑えていただくよう、ご協力をお願いします」と五十嵐さん。東北電力では、これまでホームページ上に「東北電力でんき予報」を掲載し、管内の電力需給の状況や見通しを、より詳細に分かりやすくするなど、「見える化」を図ってきました。また電気の使用実績などのデータが確認できる「電気ご使用実績照会サービス」においては、新たな機能として節電目標が設定できたり、3年間の実績比較ができる「夏季節電比較ページ」が追加されることになっているそうです(家庭用対象、サービス開始は7月2日から)。このような電力需給に関する情報も有効に活用しながら、今年も節電への意識を高く保つ夏にしたいものです。

# 節電で成果を上げている企業をご紹介

仙台市青葉区にあるリコージャパン(株)は、環境経営に積極的に取り組んでいる企業としても知られています。同社で節電対策を進めるNB営業グループの三人の方々に、その内容と成果などを伺いました。

## 昨年夏の節電結果

月平均25.2%削減!

森田 美由紀さん



以前から省エネ活動を実践していたので、昨年の夏、節電目標がマイナス15%と聞いた時には、「これ以上削減できるか」と不安でした。それでも、まだ節電ができそうな箇所を盛り込んで試算したところ、「22%の削減が可能」という数字が出たんです。「それならば」と意気込んで、同じビルに入っているグループ企業の社員も合わせた400人で節電に取り組みました。その結果、6月から10月で平均25.2%の削減を達成。電力量で約7万5千kW、金額にすると50万円程になりました。みんなで知恵を出し合ったことが参加意識を高め、よい結果につながったのだと思います。

## 今夏のポイント

我慢を強いることのない室温設定

千葉 正文さん



## コンセント

〈OA機器の待機電力をカット〉

- 収納式のコンセントをあえて見えるようにして、パソコンを使用していない時に抜いてあるか、確認しやすくする工夫(見える化)を実施。

ポイント コンセントを隠さないで見える化

\*夏の電気使用量がピークを迎える9時~10時、14時~15時はパソコンのアダプタをコンセントから抜き、バッテリーを使用する。

## 照明

〈週3回の「リフレッシュDAY」を実施〉

- 月・水・金曜日 18時15分消灯、火・木曜日 19時15分消灯

ポイント

- \*お昼休みも消灯
- \*リーダー以上が交代で消灯当番を実施。

〈フロア内の間引き点灯〉

- 天気の良い日は事務所の照明を一列おきに消灯。
- 消灯している席で、「暗い」と感じる人は点灯している席に移動する。

ポイント 明るい方へ人が動く、発想の転換

- \*外出時、デスク周りのものをすべてロッカーに収納する「クリアデスク」を実践。空いているデスクは、誰でも使用できるようにする。



〈「電気マップ」を作成・掲示〉

- どのスイッチを操作すれば、どこかの電気をオン・オフできるのかを図に示してスイッチ上部に掲示。

ポイント 全員参加のための「電気マップ」作成

- \*誰にでもわかるようにすることで、全員参加の積極的な消灯を推進。



昨年は「やるだけやった」という感があるので、問題は今年の夏です。ただ、この夏は空調の温度設定を見直したいと思っています。気持ちよく働ける環境も大切ですし、節電を長く続けるには無理は禁物。それから目的と予測、実施後の成果を全社員に伝えることも必要だと思っています。弊社は事業の特性上、自分たちの節電の取り組みをお客さまに紹介することも大切な役割ですので、今年も全員で節電へのモチベーションを高め、維持してまいりたいと思います。

### 節電による波及効果

### 生産性が向上！

土井 正治さん



節電を徹底したことで、生産性が向上しました。例えば18時15分にはフロアの照明をすべて消灯する日を週に3日設けたところ、これまで以上に効率を考えて仕事をするようになりました。さらに、お客さまに私たちの環境活動を見ていただくことで、「きちんとやらなければ」という意識も強くなっています。このような弊社の取り組みに興味をお持ちの企業さまには、節電対策のご相談にも応じていますので、まずはご一報いただければと思います。

リコーグループでは節電対策の他にも、ペーパーレス化やごみ分別リサイクルの徹底など環境配慮型オフィスづくりを自ら実践し、そこから得られたノウハウを「ライブオフィス」としてお客様に公開しています。

■節電相談・ライブオフィス見学の申し込みは

リコージャパン(株)東北営業本部まで

TEL. 022-1726-12064

## オフィス共有部分

〈社員のエレベータ使用を制限〉

- エレベータ1基を停止し、社員は基本的に階段を使う。

### ポイント

- \*各階ごとに「消費カロリー」を掲示。ささやかな「励み」を用意した。
- \*夏を過ぎても、階段を積極的に使用する社員が増加。



## 空調

〈エアコンの使い方を工夫〉

- 6月まで冷房を原則禁止し、送風モードに設定。
- 7月からは室温が28度になるように維持。

### ポイント

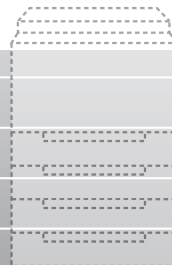
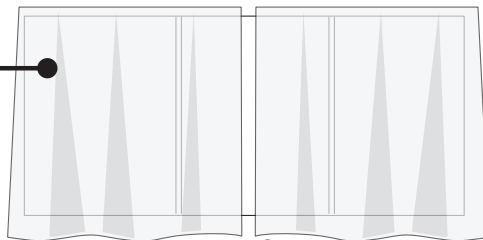
- \*当番の社員が午前・午後の一泊2回、窓側・中央付近2カ所の温度を測定し、「室温温度記録表」に「手書き」で記入。

〈遮熱カーテンの設置〉

- 暑い西日を遮るために、西側のみに遮熱カーテンを設置。

### ポイント 遮熱・遮光カーテンの活用

- \*光を通すタイプを選ぶことで、明るさを確保した。



## 最適配置

〈出力機器の最適配置〉

- 実際に使っている機器と使っていない機器を精査。
- 出力枚数と台数の関連性から、最適配置を実施。

### ポイント OA機器の使用状況を把握して最適配置

- \*28台の出力機器を4台に統合することができた。

